

NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION
URESHINO MEDICAL CENTER

地域医療 連携だより



No. 19 2015 March

国立病院機構
嬉野医療センター



国立病院機構
嬉野医療センター



国立病院機構

地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院・救命救急センター・地域災害拠点病院・
病院機能評価認定病院・赤ちゃんにやさしい病院

開放型病院登録医

医療法人 福田医院

院長 福田 義孝

〒843-0301
佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙 2315-2
☎0954-43-0550

嬉野町の嬉野医療センター近くの塩田川沿い（正式には嬉野川ではありません。）で内科を開業しております福田医院の福田義孝と申します。日頃は急患、重症患者、難治性患者さんの紹介、転院にてお世話になっております。嬉野医療センターの近くということもあり学童時代は佐世保海軍病院の面影残る、いわゆる病院臭（クレゾール臭）のする木造、コンクリ床の国立嬉野病院は特別な建物で、木造の使用されていない旧病棟は子供の禁断の遊び場（お化け屋敷？失礼）で病院内の銭湯や散髪室にも気楽にお世話になったこともありました。平成元年より父が急病になり急遽帰ってまいりました。消化器外科を専攻していましたが、一般内科医院のため循環器、小児疾患（特に異常な発熱、発疹など）、耳鼻科、眼科などいろんな科の1次医療の患者さんが来られ治療に面食らうこともありました。救急性、重症度、専門性を間違えないように注意して患者さんに最も適した診断、治療、スタッフがそろった診療科、病院への紹介するのが開業医の仕事と考え、診断、治療方針が不明瞭なときには早めの医療センターへの紹介、相談をお願いしており、快く受けていただき助かっております。国立嬉野病院から嬉野医療センターに変わり救急患者はより広域で重症度の増した3次救急医療病院になり、我々開業医は背景に嬉野医療センターがあることで安心して診療を行うことができ



ることを感謝しております。以前は主に旅館の宿泊客など急病の場合、旅館からの往診依頼、夜間診療依頼がまずあり、重症時は医療センター転送をお願いすることがありましたが、宿泊客の減少、また救急体制システムの変更、救急指定病院の登録など診療所では対応できず医療センターへの直接搬送が増えていると思います。今後、田舎の一開業医として夜間、時間外、休日なども一次の患者さんをできる限り診療することを義務として医療センターと協力して働いていきたいと思っております。高齢者社会になり緊急、重症患者さんの紹介、お願いが増えると思っておりますが、今後ともよろしくお願い致します。

開放型病院登録医

医療法人 芳山堂 薬師寺医院

院長 薬師寺 浩之

〒849-1322
佐賀県鹿島市浜町 1280 番地 1
☎0954-63-5281

嬉野医療センターの皆様には、日頃より急患や紹介患者さんを受け入れて頂き、心より感謝申し上げます。

当院は13床の入院病床を有する「有床診療所」で「内科・消化器内科・外科」を標榜しています。

嬉野医療センターからは車で約30分、鹿島市街より太良方面に向かった浜町に位置し、近くには、「肥前浜宿 酒蔵通り」や「祐徳稲荷神社」があります。

昭和63年佐賀大学医学部一般・消化器外科に入局、臨床研修の後、大学院、国内留学、米国留学を経て多久市立病院外科で医長として勤務した後、平成17年4月に当院に戻りました。消化器外科医ではありますが、日々地域の皆様の「かかりつけ医」として地域医療に少しでもお役に立つ事が出来ればとの思いで診療にあたっています。

父は大学卒業後、国立嬉野病院の外科に就職しておりまして、貴院外科がいわば母教室でした。私も国立嬉野病院で生まれ、小学校入学前まで病院官舎で暮らしておりました。貴院には深い親しみを感じている一方で、多忙な日々の業務に追われ、貴院の先生をはじめとした職員の皆様との交流を持つ機会を積極的に持ってこなかった事を反省しています。貴院の管理職的な先生方とは医師会等の会合を通じてお会いする機会は少なからずあるのですが、



実際に患者さんをお願いする際に電話口でお話し出来る先生方とお知り合いになる機会を作ってこられなかった事から、「顔の見える」関係が出来ていないのが実情です。これからはいろいろな機会を通じて、貴院の皆様と「顔の見える」関係を築かせて頂く事が出来るよう努めていきたいと痛感しています。

今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

（なお、当院の診療内容につきましては、ホームページ

<http://yakushiji-clinic.jp/> をご覧頂けましたら幸いです。）